

- 農林水産省では、厳しい渇水が継続している地域に対して、ヒト・モノ・カネの渇水対策3本柱で緊急対策を実施。
- 「ヒト」はMAFF-SAT（緊急災害派遣チーム）の派遣、「モノ」は給水車等の活用、「カネ」はポンプ、番水等の諸経費補助（50%補助）。これらをプッシュ型で、手続きを迅速かつ柔軟に行い、被害軽減に注力。

※数値は9月25日時点

渇水対策3本柱

【ヒト】MAFF-SAT（災害緊急派遣チーム）の派遣

- ・ 現場において、ポンプ、給水車等の活用や番水（地区ごとに日替わりで配水する節水方法）の作業をサポート：
19県で延べ240人・日（青森、岩手、宮城、山形、福島、埼玉、長野、新潟、富山、石川、福井、三重、兵庫、島根、岡山、福岡、長崎、熊本、大分）



【モノ】給水車、ポンプ等の活用

- ・ 農政局が給水車を手配：**4県で延べ29台・日**（宮城、新潟、富山、福井）
- ・ 農政局所有の応急ポンプ貸与：**8府県で延べ1,333台・日**（宮城、長野、富山、京都、島根、岡山、山口、徳島）

※市町村が給水車等を自ら調達しているケースを除く。



【カネ】ポンプ、番水等の諸経費補助（50%）

- ・ 「水利施設管理強化事業（特別型：渇水・高温対策）」によって、ポンプ、給水車等の活用や番水等に必要な諸経費を補助（**28府県（396市町村）で実施**）
（青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、栃木、群馬、埼玉、長野、静岡、新潟、富山、石川、福井、三重、滋賀、京都、兵庫、鳥取、島根、岡山、香川、福岡、熊本、鹿児島、大分、長崎）

